

調査回答者について（詳細）

年齢	性別	休日以外の生活スタイル				合計	全回答者に占める割合	
		市外居住者、市内に通勤・通学		市内居住				
		車両、徒歩で移動	電車、バスなどを利用	市内にいることが多い。	市外にすることが多く車両、徒歩で移動			市外にすることが多く電車、バスなどを利用
16～19歳	男性			1		1	0.3	
20～29歳	女性	1	1	4	4	11	3.3	
	男性		1	1		3	0.9	
30～39歳	女性	4		31	18	2	55	16.7
	男性	2		4	6	5	17	5.2
40～49歳	女性	4		47	15	1	67	20.3
	男性	6	2	15	23	4	50	15.2
50～59歳	女性	1		16	4	1	22	6.7
	男性	7		10	6	11	34	10.3
60～69歳	女性	2		5	1		8	2.4
	男性	2		35	2	3	42	12.7
70歳以上	女性			1			1	0.3
	男性			17	1	1	19	5.8
合計		29	4	187	80	30	330	100.0
全回答者に占める割合		8.8	1.2	56.7	24.2	9.1	100.0	—

※構成率は、小数点第2位を四捨五入

※車両には、自動車、バイク、自転車を含む

【分析】 アンケート回答者は、市内に住み、日中も市内に居る30～40歳代の女性と 同様の生活スタイルの60歳代男性を中心に構成されています。

- 1 ご自宅は耐震または免震の建物ですか。該当する答えをひとつ選択してください。
- ・耐震または免震の建物である。
 - ・耐震または免震の建物ではない。
 - ・わからない。

(単位 %)

全回答者 (330人) に占める割合		
耐震または免震の建物である	耐震または免震の建物ではない	わからない
43.6	26.7	29.7

【分析】国土交通省のH20年時点の調べでは、全国の住宅耐震化率は、約79%とのことですが、今回の調査では、耐震・免震の建物ではないとの回答を差し引いても73.3%と平均以下の結果になりました。

- 2 ご自宅の家具（たんす、本棚、食器棚、冷蔵庫など）は、地震の揺れによる転倒に備えて、固定するなどの対応を実施していますか。該当する答えをひとつ選択してください。
- ・実施している。
 - ・一部実施している。
 - ・実施していない。
 - ・わからない。

(単位 %)

全回答者 (330人) に占める割合											
耐震または免震の建物である				耐震または免震の建物ではない				不明			
実施	一部実施	未実施	不明	実施	一部実施	未実施	不明	実施	一部実施	未実施	不明
8.2	23.6	11.5	0.3	2.4	14.2	10.0	0.0	3.0	15.2	11.5	0.0

【分析】建物の耐震化・免震化の状況に関わらず、60%以上が何らかの転倒防止対策を講じているとの結果になりました。

- 3 ご自宅での就寝中の地震に備えて、枕元など身近なところに次のものを用意していますか。該当する答えをすべて選択してください。

- 懐中電灯など、コンセントの電源に頼らない照明器具
- 携帯電話
- スリッパなどの履物（ガラス製品の破損や家具の散乱への備え）。
- 笛（万一、家屋が倒壊した際などに助けを呼ぶため）。
- 非常持出袋（上記以外の物を入れている）。
- どれも用意していない。

(単位 %)

物品ごとの全回答者 (330人) に占める割合					
コンセントに頼らない照明器具	携帯電話	スリッパなど履物	笛	非常持出袋 ※その他の物	どれも用意していない
52.7	78.5	33.9	6.4	17.3	11.2

【分析】万一、転倒家具や家屋の倒壊により、体が下敷きになった際に、救助を要請するのに有効とされる「笛」の準備が、あまりなされていないことが明らかになりました。

4 ご自宅に、消火器はありますか。該当する答えをひとつ選択してください。

- ・ある。
- ・ない。
- ・わからない。

(単位 %)

全回答者 (330人) に占める割合		
ある	ない	わからない
47.0	50.9	2.1

【分析】消火器の準備状況について、全体的には、50%程度となりましたが、資料編の4ページ左の表にて詳細をみると、40歳代以下は、「ない」との回答が多い一方で、50歳代以上は「ある」との回答が多いとの傾向がみられました。

5 ご自宅には、情報を得るために、乾電池で動作する機器（ラジオ、ポータブルテレビなど）を準備していますか。該当すると答えをひとつ選択してください。

- ・機器と電池の両方を準備している。
- ・機器はあるが、電池は準備していない。
- ・機器はない。
- ・わからない。

(単位 %)

全回答者 (330人) に占める割合			
機器と電池両方準備	機器あり、電池なし	機器なし	わからない
65.5	12.4	21.2	0.9

【分析】機器と電池両方を準備している方が60%以上と、停電時の情報収集として、ある程度の準備がなされていることが明らかになりました。

6 ご自宅に水・食糧の備蓄をしていますか。該当する答えをひとつ選択してください。

- ・3日間以上分を備蓄している。
- ・2～3日間分程度を備蓄している。
- ・1日分程度を備蓄している。
- ・特に備蓄していない。
- ・わからない。

(単位 %)

全回答者 (330人) に占める割合				
3日間以上分	2～3日間分程度	1日分程度	備蓄なし	わからない
26.7	30.3	22.4	18.2	2.4

【分析】1日分以上の水・食糧を準備している方が約80%と、準備が行われていることが明らかになりました。

7 ご家族などの安否確認方法として、次の方法を使用できますか。該当する答えをすべて選択してください。

- 携帯電話会社が実施する災害用伝言ダイヤル※1
- 携帯電話会社などが実施する災害用伝言板サービス、災害用音声お届けサービス、web171
- スマートフォン・パソコンのアプリ（LINE、Skype、カカオトーク、Viberなど）。
- ツイッター
- フェイスブック
- どれも使用できない。

(単位 %)

方法ごとの全回答者（330人）に占める割合					
災害用伝言ダイヤル	災害用伝言板音声お届けサービス、web171	アプリ LINE Skype カカオトーク Viber など	ツイッター	フェイスブック	どれも使用できない
58.8	39.7	35.8	8.2	12.7	15.2

【分析】災害用伝言ダイヤルは、約60%の方が、使用できることが明らかになり、安否確認方法の基本方法となりそうなことが、考えられます。

8 ご自宅に被害があった際の避難場所などは、ご家族など皆で、決めていますか。該当する答えをひとつ選択してください。

- ・決めている。
- ・決めていない。

(単位 %)

全回答者（330人）に占める割合	
決めている	決めていない
44.2	55.8

【分析】避難場所の事前決定について、全体的には、「決めていない」方の割合が50%以上となりましたが、資料編の6ページ右の表にて詳細をみると、女性は、「決めている」傾向にある一方で、男性は、「決めていない」との傾向がみられました。

9 ご自宅の通電火災対応として、該当する答えをすべて選択してください。

- 自宅に感震ブレーカーを導入している（またはこれに準じた器具を導入している）。
- 自宅から避難する際は、電源ブレーカーを落とすよう決めている。
- 器具の導入や対応など、何もしていない。
- わからない。

(単位 %)

方法ごとの全回答者（330人）に占める割合			
自宅に感震ブレーカーなどを導入	避難の際、電源ブレーカーを落とす	何もしていない	わからない
9.7	26.4	45.2	22.1

【分析】通電火災の発生防止に有効とされる感震ブレーカーなどの導入は、現時点で、高くないことが明らかになりました。

- 10 平成25年3月に当市で作成し、各戸などに配布した防災の手引き2013年版の活用について、該当する答えをひとつ選択してください。
- ・手引きを読んで、自分自身または家族などの災害対策に活用している。
 - ・手引きを読んだことはあるが、具体的には活用していない。
 - ・手引きがあることは知っているが、読んでいない。
 - ・手引きがあること自体知らなかった。

(単位 %)

全回答者（330人）に占める割合			
災害対策に活用	読んだが、具体的には未活用	発刊は知っているが、未読	発刊自体知らない
10.0	46.7	15.5	27.8

【分析】手引きを読んだことがある方が、全体の50%以上ですが、防災・減災のために、活用されているとは言い難く、今後において、活用方法の検討と周知が課題であることが明らかになりました。

11 災害発生時は、まず自分自身が無事であることが重要であり、そのために、一人一人が自分の身の安全を守ることを自助といいます。自助を強化するための市の取組みについて、ご意見やご提案をお聞かせください。

ご意見	年齢	性別	最寄の小学校 または市外居住
身体に障害のない私達は自力で身を守るのはできますが、子どもやお年寄り、障害者の自助はかなり難しいはず。そのことについての取り組みは、なされているのでしょうか？市としては、避難場所の設定だけでなく、避難経路の設定（避難するに至って、どの経路が安全であるか。自分だけでなく、保護の必要な者をかかえながらの避難の仕方についてなどを市民と直にディスカッション・地域ごとの訓練など）を行うべきです。	30～39歳	女性	龍ヶ崎小
お祭りなどイベントで防災チェックシートを配るただのチェックシートだと受け取ってもらえないかもしれないので裏面に地図（断水時に給水車が来る場所や利用できる井戸）など災害時に役に立つ情報を パツと見てわかる大きめの字で簡素に分かりやすく表示する	30～39歳	男性	龍ヶ崎小
もうすでに取り組まれているかも知れませんが、助かる為には建物が頑丈でないと助かりたくても無理なので、学校などの耐震化はもちろんの事、耐震のリフォームに補助をしてほしい。	40～49歳	女性	龍ヶ崎小
ハード（施設）整備よりソフト（対応）の充実。市役所職員だけではなく、いかに住民を活用して対応していくかを組み込んだ災害対策に出来ると良いのではないのでしょうか。	40～49歳	男性	龍ヶ崎小
まず身の安全を確保するのが第一ですが市にお願いしたいのは出来れば冷静な地震発生の一いち早い通達！その後の状況及び非難場所への誘導の放送そして市民へのこれからどのような行動をすれば良いかの放送	40～49歳	男性	龍ヶ崎小
家族（両親）が 70歳台で俗にいう機械オンチのため伝言ダイヤルとかには拒否反応が強いので、高齢者にもわかりやすいパンフレットを作成し希望者に配布もしくは市のHPにアップする等検討してもらいたい。もしかしたら、防災の手引きに載っているのかな？	40～49歳	男性	龍ヶ崎小
避難訓練をする	20～29歳	女性	龍ヶ崎西小
避難訓練や災害についての講習会を定期的に行うと良いと思います。	30～39歳	女性	龍ヶ崎西小
町単位、班単位で避難場所や方法を決めておく。市で取りまとめ、各町各班ごとに地図に表記し配布。最低限の非常用備品や非常食を販売（半額を市で補助）給水できる箇所を周知。	40～49歳	女性	龍ヶ崎西小
具体的な状況を設定しての防災訓練。携帯電話が無い状態で家族と連絡をとる（安否確認をする）、時刻を決めて、その時刻に最寄の避難所まで電車・バスや徒歩でたどり着くなど。	40～49歳	男性	龍ヶ崎西小
今、思いつくものはない	50～59歳	女性	龍ヶ崎西小

ご意見	年齢	性別	最寄の小学校 または市外居住
東日本大震災では龍ヶ崎市では断水しましたが、水の備蓄と確保を個人で出来る範囲内できるように呼び掛けを徹底したほうがよいと思います。	50～59歳	男性	龍ヶ崎西小
勉強会が必要かと思ひます。 アンケートの内容についての事などの！	50～59歳	男性	龍ヶ崎西小
◆災害体験等を踏まえた参加型防災イベントの開催	30～39歳	女性	北文間小
広報誌やHPなどで自助ついで啓蒙活動の強化。他の市町村に比べて防災の掲載頻度が少ないような感じがします。また各地区などの防災訓練での啓蒙活動。	50～59歳	女性	北文間小
大地震を経験はしたが、しばらく経つと特に警戒はしなくなつてしまい、一度起きたらもう起きないのではないかという気持ちがあるため、特に対策をとっていませんでした。最低限用意した方がよいものや、決めておいた方がよい事など、目に付くところに貼っておけるような、簡単な手引きがあれば、常に意識できるかもしれません。	30～39歳	女性	八原小
災害時メールの情報は、有益です。市役所の災害情報が流れてくると、ありがたいです。 災害時の子ども達の情報を流すシステムがあると、いいです。特に幼稚園、保育園。 市役所のホームページに災害時の特別掲示板 など、して下さる予定があれば、教えていただくとありがたいです。これからも、個人の備蓄の啓蒙よろしくお願ひいたします。	40～49歳	女性	八原小
私のような素人では、最低限何を留意したらいいかわからないので、市が推奨する「防災用品セット」を、定期的に各家庭に支給してほしい。	40～49歳	女性	八原小
小学校の子供は、ヘルメット通学は出来ないでしょうか？理由 1・防災頭巾よりヘルメットの方が頭を守ってくれる。2・防災頭巾は各自希望者のみ用意なのでヘルメット通学なら、みんなが安全。	40～49歳	女性	八原小
防災の放送で、避難場所の放送。	40～49歳	女性	八原小
起こりえる危機を、例えば・・・として、全てしっかり伝えることが自助の強化には重要で、鬼気迫る・危機迫る！を認識することが、自助しない住民には響くでしょう。都合の良いことだけを言う専門家?の意見は要りません。	40～49歳	男性	八原小
車のガソリンは常に半分以上をキープしておくなどを周知徹底する。	40～49歳	男性	八原小
大地震に伴う、福島原発や東海原発の崩壊の際の国を越えた情報力を心構えして下さい。風向きによって即死もありえる事実を受け止め覚悟しましょう。危機管理の重要な考え方、悲観的に準備をし、楽観的に対処せよ。だと考えます。	40～49歳	男性	八原小

ご意見	年齢	性別	最寄の小学校 または市外居住
避難場所や給水出来る所を出来るだけ増やすのと情報の共有	40～49歳	男性	八原小
災害発生時に速やかに防災無線等で状況を知らせる体制を整える。現在の防災無線は停電の時は機能しないと思われるので対策をすることが必要ではないか？適切な避難が出来ることが 自助に繋がると思う。	50～59歳	男性	八原小
耐震性の弱い(怪しい) 公共の建物は、その旨表記しておく。民間の建物でも、スーパー、マンションなども準じて表記するようにする。	50～59歳	男性	八原小
地域コミュニティ(自治会等)での防災教育・対策の強化と啓蒙活動	60～69歳	男性	八原小
定期的な回覧板などで、周知徹底させる。	70歳以上	男性	八原小
震災の記憶が薄れてきた頃に注意喚起する。特に食糧備蓄のようなある程度定期的にやらないと意味のないことについて啓蒙する。	30～39歳	男性	馴馬台小
具体的な、個人でできる備蓄品・貴重品保管方法などのパンフ配布などのPR	50～59歳	男性	馴馬台小
セミナーを開催する(無料)	20～29歳	男性	馴柴小
りゆうほうでもっと対策などを教えて欲しいです。	30～39歳	女性	馴柴小
災害時の避難所がわかりません。	30～39歳	女性	馴柴小
訓練と呼び掛けを繰り返し行う。	40～49歳	女性	馴柴小
小学校等での防災教育	40～49歳	女性	馴柴小
自助にあたるかどうかはわかりませんが、佐貫の西口に住んでいますが、西口からだ一番近い避難所の馴柴小学校まで距離があり、線路を越えて行くため地震時に何等かの形で線路が渡れないと、避難所まで行けないので西口にも避難所の確保をお願いします！	40～49歳	男性	馴柴小
大地震の際の初期行動について啓蒙活動をして欲しい。市報ではなく冊子作成か市HPへの掲載など。	40～49歳	男性	馴柴小
3.11では、県南水道が丸一日使えなかったのが辛かったです。ですから、市としては、たとえば市内の公園に井戸を設置して欲しいと思いました。	50～59歳	女性	馴柴小
井戸をお持ちのお宅(飲用適・不適)の把握、水道水が使用不能の皆さんへの提供可・不可などのリストを作成しておく。	50～59歳	女性	馴柴小

ご意見	年齢	性別	最寄の小学校 または市外居住
市内で、自助訓練の日など設けて、意識を高めて行くのもいいのかなあ？と思いました。	50～59歳	女性	馴染小
マンションやビル、市役所など、地震の揺れでドア枠が歪みドアが開かなくなって閉じ込められてしまうことを防ぐことも重要ではないでしょうか？備蓄していてもドアが開かなければどうにもなりません。手前味噌ですが、耐震ドアシステム「アケルくん」という商品を取り扱っております。そういう閉じ込められ対策も検討されてはいかがでしょうか？	50～59歳	男性	馴染小
各個人が災害時に非難すべきである場所の登録並びに本人との家族・関係者の登録リストを作成し想定される非難場所等へ保管し、いざとなった時の生存確認手段としてはどうだろうか！？。各自それぞれの家族なり関係者へ災害時は連絡を取り合うとは思いますが得てして最悪の場合は連絡不可の可能性大であり自治体としては住民の安否確認が第一だと考える。	60～69歳	男性	馴染小
市として災害発生時の具体的取り組みが分からない。例えば、今災害が発生したら自分はどのように動けばいいのか？初動の動きが分からない。避難所は学校となっているが道が寸断されていたら誰が何をしてくれるのか、救助以来連絡をどこにすればいいのか分からない。市として行動マニュアルを発行するとともに訓練指導するべきと思う。	60～69歳	男性	馴染小
避難訓練を子供達に、強化してほしいです！3月11日は学校中でしたので。あた小中の連携ができてなかったから兄妹がいますのでそこをもっとしっかりしてほしいです！	30～39歳	女性	長山小
体力づくり	50～59歳	男性	長山小
家屋の耐震化診断に助言等を推進してほしい。	60～69歳	男性	長山小
高齢者だけが住んでいる住宅が増えているが、普段近所との交流をしない方もいる（自治会へも未加入）。このような方たちへ「近所付き合いや連携の重要性」の啓蒙活動を根気よく続けて欲しい（ディーサービス会社などとも連携しながら）	60～69歳	男性	長山小
年1回程度の自治会・小学校共催等の定例的な防災訓練だけではなく、もっときめ細かい防災訓練を行い自分でできる防災知識を高める必要があると思います。	60～69歳	男性	長山小
防災の手引きで時々対応を確認している。これが一番分かり易く、体系的にできているので、その充実を望む。自助の次の段階の共助で、隣近所の助け合い、自治会活動などの好事例があれば広報誌等に掲載して頂きたい。	60～69歳	男性	長山小
身近な情報を得るには防災竜ヶ崎の放送が一番確実だと思っておりますが、その放送を聞き取れない事がだいぶあるのでとても不安です。	60～69歳	女性	長戸小
災害時は被害が大きいほど当たり前の事も混乱してしまうので、防災無線で危険性（ガス漏れや電気配線などの見回り）を強く呼びかけてほしいです。竜ヶ崎はその辺がルーズ過ぎると以前の震災で感じました。阿見町では消防署、ガス会社、警察、電力会社がすぐに町の見回りと呼びかけをしていました。	30～39歳	女性	大宮小

ご意見	年齢	性別	最寄の小学校 または市外居住
妻が身障者の為妻自身で逃げられないので災害時はあきらめて ます。	60～69歳	男性	大宮小
外出先で、今この場(とくに屋外)で被災したときの避難場所が 分かるような案内板があるといい。市内には井戸のある家や場 所が多くあると思うので、それが分かるような地図や案内があ るといい。いざというときに、何もできないのはあたりまえな ので、定期的に被災疑似体験(電気、ガス、水のない生活)を行 える講習会などがあるといいと考えます。家族単位で参加し、 それぞれができる役割を見つけ、実践する力を養うのはいかが でしょうか?かのうであれば、1泊程度できると学びが深まる と思います。	30～39歳	女性	川原代小
自助を強化するための市の取組みを知る機会があまり無く思え ますが、「Webモニター 大地震への事前対策に関するアンケー ト」や、「タッピーメール【アンケートのお願い】大地震への 事前対策について」等自助について市とのコミュニケーション が返答する形式であった事は、自助に関するTV等の情報や市か らの配布物等よりも、市民が強烈に意識するとても良いきっか けになったと思います。Webモニター自体が、この意識付けの為 の手段であったとしても成功だと思えます。	40～49歳	女性	川原代小
市内の裏道など、震災後凸凹で通りづらい道が、まだまだあり ます。対策案はあるのですか。	40～49歳	男性	川原代小
地域の中での話し合いや訓練が必要。一時避難場所の確認とと もに、避難所の運営協力など地域で活動する役割等を確認して いく必要がある。	50～59歳	男性	川原代小
自助する行為はとても難しいことです。何より家族の安否が不 安となります。不安がなければ自助を最優先にすることがで き、一人でも多くの被害者を減らすことにつながると思いま す。災害時の安否情報の開示場所や問い合わせ先をしっかりと 決めておくと、問い合わせ先も混乱せず対応も迅速に行うこと ができると思います。できれば、保育所、小中高校、老人ホー ムに通う人達の安否情報が一箇所を確認できれば無駄な電話回 線の混雑も未然に防ぐことができると思います。	30～39歳	女性	城ノ内小
自助というものをまずは子ども達に知ってもらい、いざと言 うときに対処出来るよう学校などで話し合いの時間を作ってもら うといいのではないのでしょうか?具体的な例を交えて、こんな 時はどうすればいいか?など、実際起こりそうな事柄で自分に おかれた状況を想像させてみたら理解しやすいのでは?	30～39歳	女性	城ノ内小
小さい子供を持つ家庭や、お年寄りなどがいるご家庭は、家族 や学校や施設が中心になって守ってあげることが必要だと思 う。一人暮らしのお年寄りなどが孤立しないように地域のコミ ニティ強化が大切で、行事や市で行われる催し物に参加するこ とで顔見知りの人を増やしていくようにするのいいと思う。不 審者などの判別も地域の人の顔を知っていないとできないこと だし、地域のみんなで一人暮らしのお年寄りの情報などを共有 できるのいいと思う。	30～39歳	女性	城ノ内小
ニュータウンにある賃貸住宅なので、地域との繋がり、コミュ ニケーションが希薄である。地域毎の交流が増える場がもっと 欲しい。	30～39歳	男性	城ノ内小

ご意見	年齢	性別	最寄の小学校 または市外居住
仮想体験	40～49歳	女性	城ノ内小
私は専業主婦です。主人も私の両親も、市内に住んでいます。我が家は、耐震性のある比較的新しい家ですが、双方の実家は、築30年以上の耐震性のない家です。どちらの両親も自分の家は大丈夫と思い込んでいて、耐震検査もしていません。一応、避難先は我が家に決めています。老人は、災害に対する危機感が低いです。備蓄も家族四人が八人になれば足りないし、子供達の迎えも、主人が帰宅困難時は、私一人で老人四人を世話することになります。危機管理の老人の意識の低くさに困っています。市で積極的に老人宅に自助を呼びかけて欲しいです。	40～49歳	女性	城ノ内小
市役所や病院の待合ロビーなどに自助の重要性、方法等を知らせるパンフレットや冊子を置いておけば、見るかもしれません。（ファミレスもいいかも）	40～49歳	男性	城ノ内小
防災龍ヶ崎をもっと聞き取り易く改善してほしい	40～49歳	男性	城ノ内小
災害発生した時家族の連絡、安否の確認に時間が掛かると思います。ですから行政は防無線の運用方法を災害時にマニュアルを定める。また民館の活用の仕方ルールを定めておく。一人の安全確保も大切ですが、地域住民の方々の安全確保も一緒に考えて、災害に強い街づくりが出来ると思います。	50～59歳	男性	城ノ内小
市、配布の対策書を見たいが市役所に有りますか？	60～69歳	男性	城ノ内小
ペットがいるため、避難所には行けないと考えているのでどうしたらいいのか悩んでいる。前の東北の地震などペットがいる方が迷惑になったことを知り、市では考えていただけたらと思う。	40～49歳	女性	松葉小
●地震発生時の対処方法を講座（疑似避難などの座学・体験）●火災などの “ ” ●安全避難のための地域別誘導 訓練	50～59歳	男性	松葉小
近隣には何かあると、行政が助けてくれる、助けてもらえるものと考えている住民がいる。あくまで”自分の身は自分で守るのが基本だ”と日頃から広報で訴え、避難場所、非常食、非常トイレなどを確保しておくのを心がけるよう訴えて行く。	60～69歳	男性	松葉小
在宅避難者への支援策を具体的に示してほしい	60～69歳	男性	松葉小
自助自助と言うだけでなく、自助の具体例を数多く示して欲しい。	60～69歳	男性	松葉小
難しすぎて256字でどうして表現できるのでしょうか。	60～69歳	男性	松葉小
防災の手引き（2013年版）は全くの失敗作では？これをして市の防災への取り組みといわれるのは筋違い。見難い、読みにくい、印刷は最悪、・・・・市に期待してはいけないうことをこの手引きがよく教えている。	60～69歳	男性	松葉小

ご意見	年齢	性別	最寄の小学校 または市外居住
市に井戸や公衆便所を増やしてほしい。できればブルーシートの備蓄があればよいと思う。	70歳以上	女性	松葉小
災害発生時と直接関係ありませんが、老人が自分で動ける状態を常に保つ為の市民講座等の積極的開催等。	70歳以上	男性	松葉小
通常の防災訓練ではインパクトがないので、「出前講座」のような形で各自治会、学校、幼稚園、サークル等に呼びかけては如何でしょうか。また、場所と曜日を特定して月に何度か定期的に防災訓練を企画、先ず高齢者を準強制的にお誘いしてはとも思います。呼びかけは「明日起こるかも知れない直下地震、その時龍ヶ崎は・・・云々」と衝撃的に行うと反応が期待できるのでは。	70歳以上	男性	松葉小
指定避難場所について、市民の方はご存知かと思いますが、通勤者は知らない人が多いと思います。また、たまたまそのタイミングで市内に来ている方にも周知ができるよう、案内板の設置を進めていただきたいです。	40～49歳	男性	市外居住
老人や子供が一人の時でもできるような、簡易なマニュアルが必要	40～49歳	男性	市外居住
HPで自助を強調する	40～49歳	女性	久保台小
正しい情報を素早く通達することが重要だと思います。日ごろから防災無線の放送だけでなく、市からの情報は確信が持てるので、信用しても大丈夫、という市民とのつながりを持つことが極めて重要になると思います。	40～49歳	女性	久保台小
ひとつひとつの家庭に防災アンケートをして、防災意識を高める。	40～49歳	男性	久保台小
定期的に情報の発信やアンケートによる意見や要望の収集を実施する。	40～49歳	男性	久保台小
市の予算もあるでしょうが、防災リュックみたいなのを配って欲しい。	50～59歳	女性	久保台小
自治会の災害に対する訓練が昨年から行部内公園で始まりました。今年はずいぶん参加しようと考えています。市の防災の方々のご協力もあったようなので、今年もよろしくお願いいたします。	50～59歳	女性	久保台小
インフラの復旧対策とそれまでの間の援助	60～69歳	男性	久保台小
まだ他人ごとのようではない	60～69歳	男性	久保台小
井戸がほしい、手動で出せる井戸がほしい（電気に頼らないで出る井戸）できれば、どこにあるか、地図を作っていただければありがたい。	60～69歳	男性	久保台小